

巻 頭 言



会 長 就 任 に あ た っ て

萩 原 宏†



このたび、はからずも多数の会員の皆さまのご推挙によりまして本学会の会長の重責を担うことになりました。私自身、昭和 57, 58 年度の副会長を務めましたので、学会運営の状況を多少は心得ているつもりですが、当時 2 万人に満たなかった会員数が 3 万 2 千人を超えるに至り、また、事務所も移転して、まったく様変わりしており、とまどうことも多いのではないかと思います。幸い学識経験の豊富な両副会長をはじめ理事役員の方々がおられますし、練達の事務局の方々もおられますので、会員の皆さまのご協力を得て、本会の発展に尽くすことができたと願っております。

本会は創立後 30 年余を過ぎ、昨年は数々の 30 周年記念事業が盛大に行われたことは皆さまご承知のとおりであります。この間のコンピュータを中心とした情報処理技術の進歩は目ざましいものがあります。ハードウェアをみても、メインフレームを中心として、大はスーパーコンピュータから小はワークステーション、パソコン、ワープロに至る多種多様なものが開発され、専門家から広く一般の人々にまで利用されるようになっていきます。また、その応用をみますと本学会創立のころは、科学技術計算、事務計算だけであったものが、オンライン・リアルタイムの応用からネットワークへ発展し、データベース技術の進展をともなって巨大なシステムが構築されており、記号処理技術の進歩は自然言語処理あるいは人工知能へと発展しておりますし、グラフィックス技術は CAD・CAM の発展を促しております。また、先ごろの湾岸戦争で注目されたさまざまなハイテク技術にも情報処理技術が深く関わっております。

このように、情報処理技術の基盤をなすコンピュータ・アーキテクチャの面も、その具体的な応用の面も多岐多様にわたっております。この多様化は今後ますます拡大していくでありましよう

し、研究すべき問題も幅広いものになっていくものと思われまます。これに対して本学会はいかに対処すべきかが大きな課題であるといえましよう。

考えるべきことは多々あると思いますが、まず第 1 は学会誌であります。学会誌は広く多数の会員の方々に読んでいただくのが望ましいと思いますが現状はいかがでしょうか。専門分野の、あるいは関係のある記事以外は見向きもされないのではないのでしょうか。学会誌としての品格を維持するためにある程度のレベルを保つことは必要であると思いますが、非専門の方々にも広く読んでいただけるような内容の読みやすい記事にすべきであると考えております。

第 2 は研究会です。情報処理関係の分野の間口の拡がりにもなっており、本学会では今年度は 21 の研究会を設けております。いずれも、現在の情報処理の研究分野として重要なものばかりです。各研究会の主査、幹事の方々のご努力によって活発な研究会活動が進められていると思いますが、さらに工夫して、より効果のある研究会にすべきであると考えております。

第 3 は学会の最も大きな行事である全国大会です。学会の巨大化につれてさまざまな問題が生じています。どのような大会にすべきなのか、大会の運営はどうしたらよいのか、考えるべきことは多いように思います。

第 4 は国際会議をはじめとするいろいろな国際活動の問題です。我が国の国際的地位の向上にもなっており、学会としてもそれにふさわしい国際活動を進めるべきでしょう。

このほかにも学会のかかえる問題は多々あると思います。30 周年記念事業も終わりましたので、地道に各課題に取り組んで、学会のますますの発展を期したいと考えておりますので、会員の皆さまの一層のご支援と御協力をお願い申し上げます。

(平成 3 年 4 月 22 日)

† 本会会長 龍谷大学理工学部